

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

※米国政府機関の一部閉鎖により直近の情報を入手できなかったため、執筆時点にて入手可能な統計情報に基づいています。

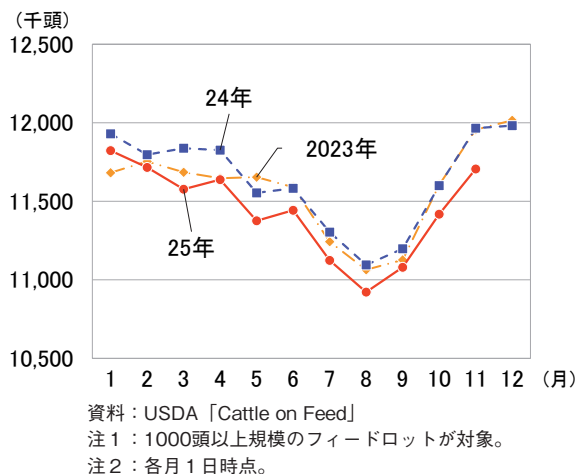
米 国

牛肉卸売価格は高値で推移しつつも9月をピークに下落

25年10月の牛肉生産量は前年同月比5.7%減

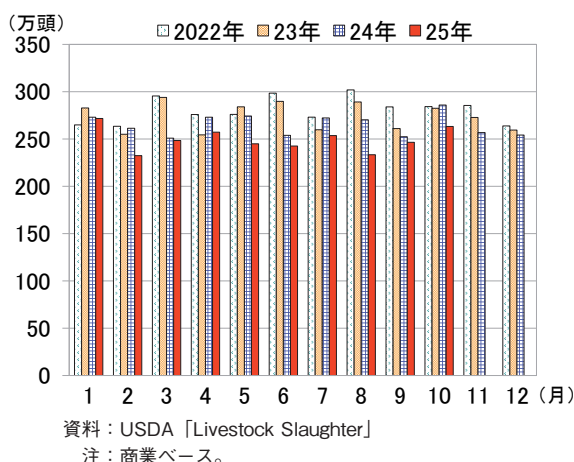
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年9月および10月のフィードロット導入頭数はそれぞれ202万1000頭（前年同月比6.3%減）、203万9000頭（同10.0%減）といずれもかなりの程度減少し、さらに出荷頭数はそれぞれ163万2000頭（同3.9%減）、169万7000頭（同8.0%減）と減少した。この結果、同年11月1日時点のフィードロット飼養頭数は1170万6000頭（同2.2%減）とわずかに減少した（図1）。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



また、9月および10月の牛と畜頭数はそれぞれ246万5000頭（同2.3%減）、263万2000頭（同7.9%減）といずれも減少した（図2）。

図2 牛と畜頭数の推移



なお、1頭当たり枝肉重量はそれぞれ399.2キログラム（同2.1%増）、403.2キログラム（同2.4%増）とわずかに増加したが、牛肉生産量はそれぞれ97万9000トン（同2.2%減）、105万5000トン（同5.7%減）と減少した（図3、4）。25年の牛肉生産量についてUSDAは、1171万7000トン（前年比4.5%減）とやや減少すると見込んでいる。

図3 平均枝肉重量の推移

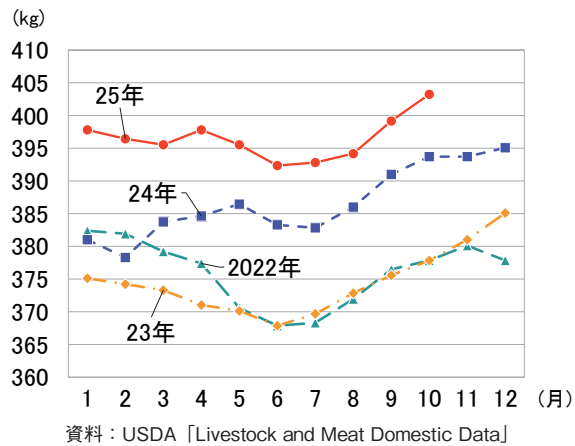
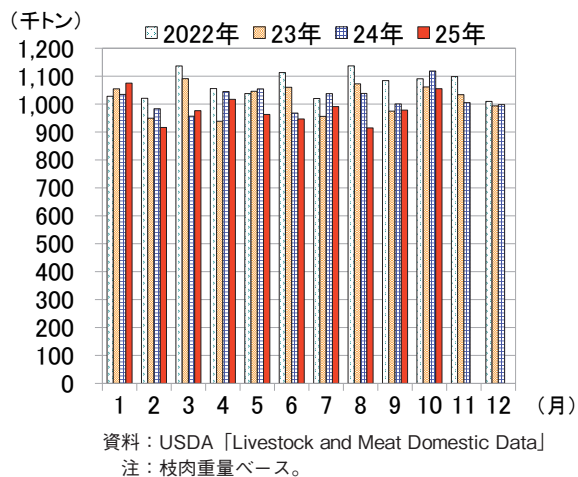


図4 牛肉生産量の推移



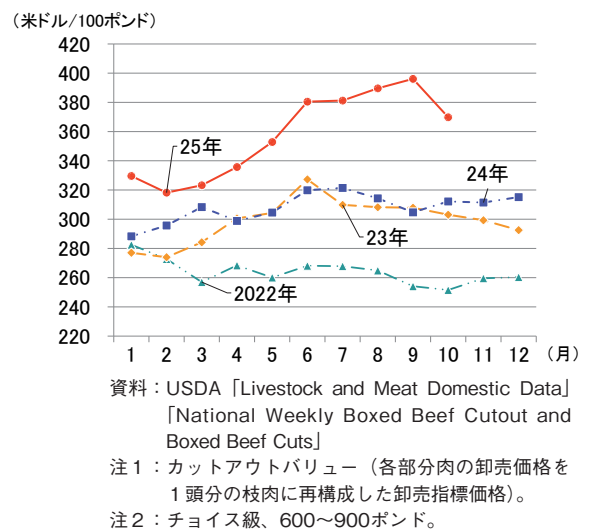
25年10月の牛肉卸売価格、前月をかなりの程度下回る

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）および農業マーケティング局（AMS）の公表情報によると、2025年9月の牛肉卸売価格

（カットアウトバリュー^{（注1）}）は、牛肉に対する堅調な需要と生産量の減少から、100ポンド当たり396.1米ドル（1キログラム当たり1376円：1米ドル＝157.63円^{（注2）}、前年同月比30.0%高）と前年同月を大幅に上回った。同年10月の牛肉卸売価格は、同369.8米ドル（同1285円、18.5%高）と前年同月を大幅に上回ったものの、前月からはかなりの程度下落（6.6%安）した（図5）。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

図5 牛肉卸売価格の推移



（調査情報部 国際調査グループ）

豪州

25年第3四半期の牛肉生産量は過去最高、と畜頭数も約半世紀ぶりの高水準

25年11月若齢牛価格は再び900セント台まで上昇、今後も強含み予測

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2025年11月27日時点で1キログラム当たり893豪セント（932円：1豪ドル＝104.36円^{（注1）}）と、その前週に記録した今年最高値909豪セント（949円）から若干下落したものの、高値で推移している（図1）。

現地報道によると、主要肉用牛生産地域であるクイーンズランド（QLD）州およびニューサウスウェールズ（NSW）州北部の広範囲の降雨で牧草の生育状況が改善されたことから、牧草肥育農家による若齢牛の購買意欲が高まっているとされている。また、今後の見通しについて、現地アナリストによると、市場における若齢牛の供給不足感は継続

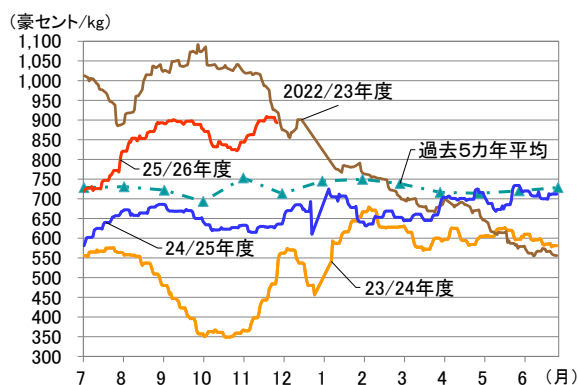
することから、年末まで価格の下落圧力がかかる可能性は低いと見ている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

牛肉生産量は四半期ベースで過去最高、と畜頭数も過去最高水準

豪州統計局（ABS）が2025年11月に公表した統計によると、25年7～9月期の牛と畜頭数は1978年以来最多となる248万頭（前年同期比10.4%増）、牛肉生産量は過去最高の75万9300トン（同9.9%増）を記録した（図2）。現地アナリストは、穀物肥育牛の出荷増が、枝肉重量の小さい繁殖雌牛や干ばつが発生した豪州南部地域（ビクトリア〈VIC〉州など）由来の若齢牛の出荷増を相殺し、枝肉重量を安定させたことが記録更新の要因と分析している。繁殖雌牛の出荷増は、雌牛と畜割合（FSR）の推移にも現れている（図3）。

図1 EYCI価格の推移

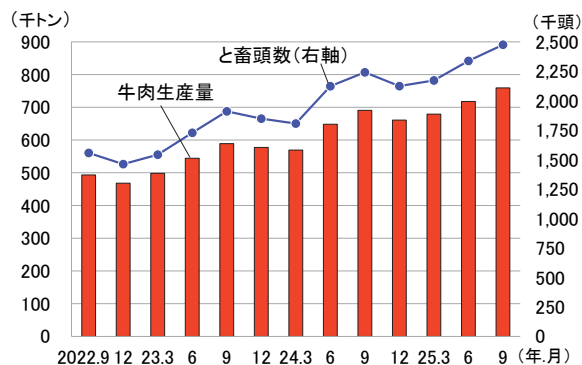


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



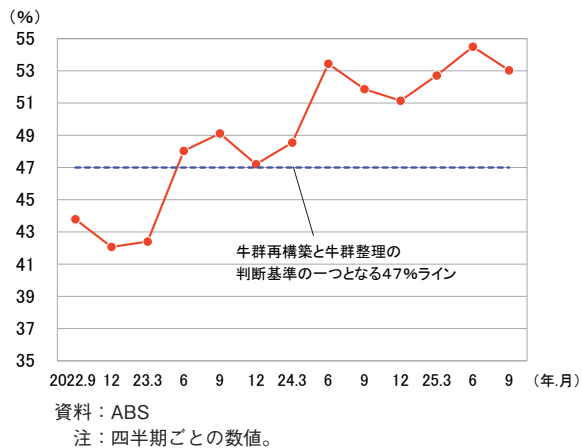
資料：ABS

注1：四半期ごとの数値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。

注3：と畜頭数は子牛を除く。

図3 雌牛と畜割合（FSR）の推移



一方、食肉加工処理の主要地域であるQLD州、NSW州、VIC州の食肉処理施設における25年第3四半期の稼働率は、干ばつ

により牛群^{とうた}淘汰が大きく増加した年を含む過去10年間の平均稼働率と同等となっており、今後干ばつが長期化した場合などの処理能力不足が懸念されている。

米国の関税措置の変更による影響は不透明、日本向け輸出は好調

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年10月の牛肉輸出量は13万9286トン（前年同月比7.1%増）とかなりの程度増加し、7月の15万435トンに次ぐ過去2番目の数量となった（表）。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
米国	45,338	41,572	▲8.3%	370,365	16.6%
日本	15,021	26,883	79.0%	209,868	▲1.0%
中国	15,678	20,258	29.2%	223,505	46.1%
韓国	19,733	17,675	▲10.4%	182,812	12.1%
東南アジア	18,909	11,580	▲38.8%	116,423	▲6.3%
中東	3,695	4,454	20.5%	33,712	9.6%
E U	1,310	2,878	119.7%	20,750	88.2%
その他	10,365	13,986	34.9%	109,087	27.3%
輸出量合計	130,048	139,286	7.1%	1,266,522	15.4%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

10月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向けは4万1572トン（同8.3%減）とかなりの程度減少したが、依然として輸出先の約30%を占めている。現地報道によると、11月15日に米国のトランプ大統領が署名した相互関税範囲の修正により、豪州を含む各国

の相互関税が撤廃された一方で、米国市場で競合するブラジル産牛肉は40%の追加関税分が残ることから、豪州産牛肉の競争優位性は維持されるとしていた^{（注2）}。しかし、その翌週の11月21日には、ブラジル産牛肉に課されていた追加関税の即時撤廃が発表された。

ブラジルは25年末までは複数国枠の枠外税率である26.4%の関税が課せられるものの、26年1月からは6万5005トンの低関税枠が再び利用可能となる。現地の輸出事業者によると、26年の低関税枠の利用を想定して事前に米国の保税倉庫に輸送・保管されているブラジル産牛肉が、今回の関税撤廃を契機に25年中に市場に放出されることで、短期的に豪州産牛肉の対米輸出は減速する可能性があるとされている。

また、日本向けは2万6883トン（同79.0%増）と大幅に増加した。豪州産牛肉

が米国産との価格競争で優位となっていることに加え、MLAによると、日本の牛肉在庫水準はここ数カ月間減少傾向にあり、国内の供給不足と旺盛な牛肉需要が相まって、豪州産牛肉の輸出を後押ししているとされている。

（注2）海外情報「米国の相互関税見直しを肉用牛業界は歓迎、牛肉輸出の更なる追い風か（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004237.html）をご参照ください。

（調査情報部 国際調査グループ）

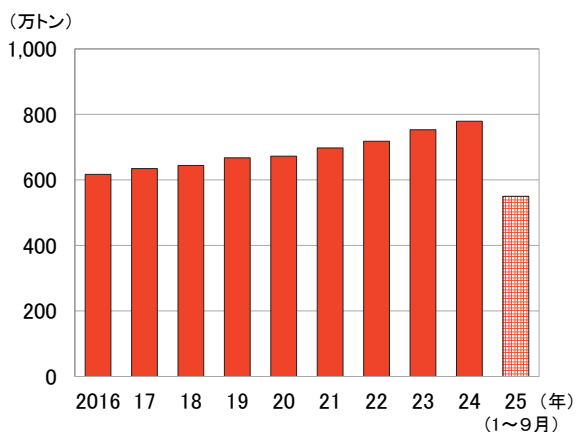
中国

牛肉生産量は引き続き増加も価格は上昇傾向

25年1～9月の牛肉生産量、前年同期比3.4%増

中国国家统计局によると、2025年1～9月の牛肉生産量は、生乳価格の下落から乳用牛の淘汰が進んだことなどにより、550万トン（前年同期比3.4%増）とやや増加した（図1）。

図1 牛肉生産量の推移



資料：中国国家统计局

中国農業農村部は25年4月、25年の牛肉生産量を750万トン（前年比3.7%増）とする予測を発表しているが（注1）、過去3カ年の第4四半期（10～12月）の牛肉生産量が240万トン前後で推移していることを踏まえると、同予測を上回る可能性が高いと考えられる。

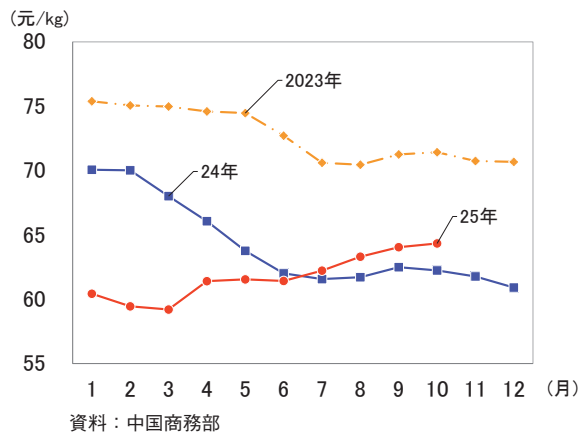
（注1）海外情報「中国農業展望報告（2025－2034）を発表（牛肉編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004143.html）をご参照ください。

25年10月の牛肉卸売価格、前年同月比3.4%高

中国商務部によると、2025年10月の牛肉卸売価格は1キログラム当たり64.3元（1442円：1元＝22.43円（注2）、前年同月比3.4%高）となり、同年7月以降、4カ月連続で前年同月を上回った（図2）。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

図2 牛肉卸売価格の推移



この要因について中国農業農村部は、25年11月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年10月）」の中で、気温の低下に伴い、火鍋などの牛肉消費が増加し、輸入品だけでなく国産牛肉の引き合いも強まったためとしている。また、今後の牛肉価格については、第3四半期末時点での牛飼養頭数（乳

用牛を含む）が9932万頭（前年同期比2.4%減）と減少している一方、引き続き火鍋などにより国産牛肉の引き合いが強まることから、小幅に上昇すると見込んでいる。

25年1～10月の牛肉輸入量、冷凍・冷蔵ともに米国産が5割以上減少

2025年1～10月の牛肉輸入量を見ると、輸入の大部分を占める冷凍牛肉は234万7432トン（前年同期比2.9%増）とわずかに増加した（表1）。一方、冷蔵牛肉の輸入量は5万8961トン（同1.3%減）とわずかに減少した（表2）。中国政府の米国産牛肉に対する追加関税などの影響により米国産の輸入量が冷凍・冷蔵ともに5割以上減少した一方、ブラジル産や豪州産が増加したことで、輸入量全体の変動は小幅にとどまった。

表1 冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

（単位：千トン）

国名	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	127.5	167.2	31.1%	1,213.3	15.4%
アルゼンチン	41.0	46.5	13.5%	400.4	▲15.9%
豪州	15.2	18.7	22.5%	237.1	49.2%
ウルグアイ	15.7	15.9	1.2%	179.3	▲13.6%
ニュージーランド	7.3	6.5	▲11.3%	101.7	▲21.0%
ボリビア	8.4	13.2	57.4%	86.3	▲4.1%
米国	9.3	0.3	▲96.4%	48.3	▲50.5%
その他	7.1	6.9	▲2.1%	81.0	14.6%
合計	231.6	275.2	18.8%	2,347.4	2.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0202。

表2 冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
豪州	3,550	5,437	53.1%	45,569	29.5%
米国	1,455	67	▲95.4%	6,628	▲57.7%
ニュージーランド	223	314	40.8%	4,001	▲26.9%
アルゼンチン	237	187	▲20.9%	1,739	2.0%
ベラルーシ	81	77	▲3.8%	837	89.9%
ウルグアイ	90	0	▲100.0%	123	▲79.9%
ロシア	62	0	▲100.0%	64	▲89.5%
合計	5,698	6,083	6.8%	58,961	▲1.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201。

26年の牛肉輸入量（冷凍および冷蔵）について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、25年9月に公表したレポートの中で、中国国内での乳用牛の淘汰に伴い繁殖雌牛が減少したことで、子牛頭数が減少し、牛肉

生産量も減少することから、わずかに増加すると見込んでいる。

(調査情報部 平山 宗幸)

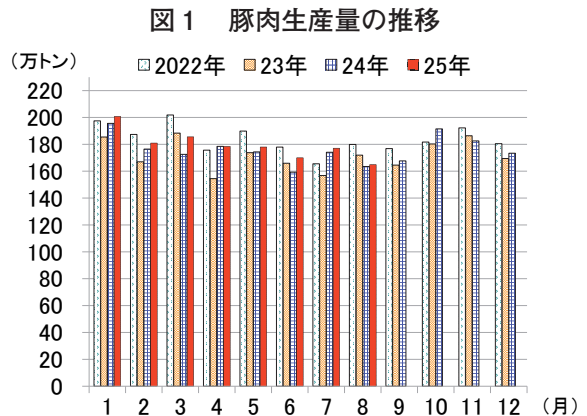
豚 肉

E U

25年9月の豚肉輸出量、中国向けは減少するも全体では増加

25年8月の豚肉生産量、前年同月比0.9%増

欧州委員会によると、2025年8月の豚肉生産量（EU27カ国）は165万トン（前年同月比0.9%増）とわずかに増加した（図1）。豚と畜頭数は1755万頭（同1.0%減）と前年同月をわずかに下回った一方、1頭当たりの枝肉重量が93.95キログラム（同1.9%増）とわずかに増加し、生産量の増加につながった。



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

主要生産国別の状況を見ると、スペインはと畜用豚の域内からの輸入を増やし、同年1～8月の豚肉生産量を前年同期比6.3%増加させた（表1）。デンマークは同期間の豚と畜頭数を5.6%増加させ、生産量も同5.6%

増加した。同国の同年6月時点の豚飼養頭数は1189万頭（前年同月比5.6%増）、このうち繁殖用豚は115万頭（同0.5%増）と2年連続で増加している。

表1 主要生産国別豚肉生産量

（単位：万トン）

国名	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	35.65	36.47	2.3%	345.85	6.3%
ドイツ	35.65	35.01	▲1.8%	285.59	1.0%
フランス	16.69	16.31	▲2.2%	137.91	▲0.9%
ポーランド	15.04	15.22	1.2%	130.05	4.8%
デンマーク	10.06	11.06	10.0%	93.18	5.6%
オランダ	9.79	10.47	7.0%	94.18	▲0.6%
イタリア	9.47	9.49	0.1%	86.27	3.7%
その他	31.16	30.88	▲0.9%	262.73	2.4%
合計	163.50	164.90	0.9%	1,435.76	3.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

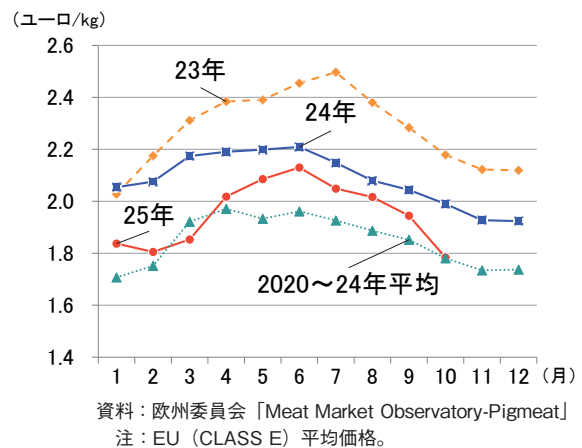
注：枝肉重量ベース。

25年10月の豚枝肉卸売価格は、低下

欧州委員会によると、2025年10月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム当たり1.78ユーロ（326円：1ユーロ＝183.1円^{（注1）}、前年同月比10.4%安）となった（図2）。同価格は4カ月連続で前月を下回り、下落幅は拡大している。国別に見ると、中国向け輸出の多いスペインが同9.5%安となり、同国の価格下落が域内全体の価格に下落圧力を与えた。ドイツ（同11.4%安）、フランス（同8.8%安）およびポーランド（同14.6%安）の同価格も軒並み下落した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



25年9月の豚肉輸出量、前年同月比4.3%増

欧州委員会によると、2025年9月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は15万9365トン（前年同月比4.3%増）とやや増加した（表2）。中国が同年9月10日から

暫定的なアンチダンピング関税を適用^(注2)したことにより、同国向け輸出は同42.8%減と大幅に減少した。しかし、韓国、台湾、米国およびウクライナ向けなどの大幅な増加により、結果的には前年同月を上回った。なお、韓国政府は10月23日、ドイツで口蹄疫が発生して以来禁止していた同国からの豚肉輸入

を再開した。現地報道によると、韓国はバラ肉などの主要な買い手でもあるため、この再開はドイツの養豚業界に一定の新たな見通しをもたらしているという。

(注2) 海外情報「EU産豚肉に対し中国がアンチダンピング関税を暫定的に措置（EU、中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004204.html)をご参照ください。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2024年 9月	25年 9月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
英国	28,634	28,394	▲0.8%	239,613	▲5.1%
中国	39,585	22,629	▲42.8%	338,633	▲6.2%
日本	17,105	16,022	▲6.3%	178,966	▲20.3%
韓国	10,067	15,077	49.8%	156,673	3.1%
フィリピン	13,044	11,256	▲13.7%	84,933	▲12.0%
台湾	3,057	7,172	134.6%	42,165	98.6%
米国	3,645	6,507	78.5%	41,539	95.7%
ウクライナ	192	6,185	3121.4%	21,677	2.1%
その他	37,430	46,123	23.2%	379,759	▲1.2%
合計	152,759	159,365	4.3%	1,483,958	▲0.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 渡辺 淳一）

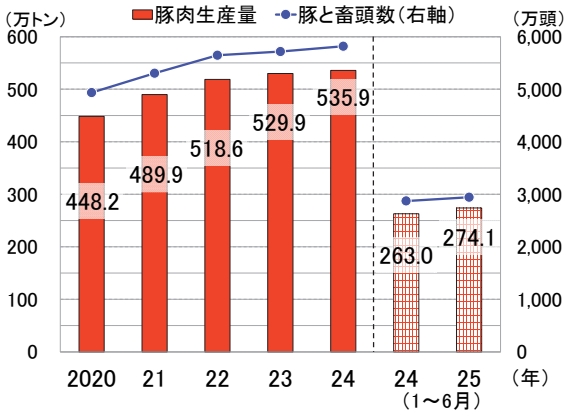
ブラジル

25年1～10月の豚肉輸出量は引き続き好調

25年1～6月の豚肉生産量は、前年同期比4.2%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年1～6月の豚と畜頭数は2943万2000頭（前年同期比2.5%増）、豚肉生産量は274万1000トン（同4.2%増）と、いずれも前年同期を上回って推移した（図1）。

図1 豚肉生産量および豚と畜頭数の推移



資料：IBGE

注1：枝肉重量ベース。

注2：2025年は速報値。

25年 1～10月の豚肉輸出量は、前年同期比13.5%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年 1～10月の豚肉輸出量は111万636トン（前年同期比13.5%増）と前年同期をかなり大きく上回った（表）。

輸出先別に見ると、第1位のフィリピン向けは28万503トン（同58.2%増）と同国内の豚肉生産がアフリカ豚熱（ASF）による影響で減少している中、国内需要を補うため、継続して輸入量が大幅に増加した。一方、第2位の中国向けは、経済成長の減速と国内の豚肉生産の増加により12万3823トン（同31.9%減）と大幅に減少した。

表 輸出先別冷蔵・冷凍豚肉輸出の推移

国名	2024年（1～10月）			25年（1～10月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
フィリピン	177,298	426,787	2.41	280,503	695,092	2.48	58.2%	62.9%	2.9%
中国	181,903	384,539	2.11	123,823	266,916	2.16	▲31.9%	▲30.6%	2.0%
チリ	91,161	208,285	2.28	98,263	248,603	2.53	7.8%	19.4%	10.7%
日本	74,610	249,936	3.35	94,689	325,693	3.44	26.9%	30.3%	2.7%
香港	72,152	168,526	2.34	77,893	202,193	2.60	8.0%	20.0%	11.1%
メキシコ	38,905	92,742	2.38	63,868	155,593	2.44	64.2%	67.8%	2.2%
シンガポール	67,706	171,124	2.53	62,379	183,077	2.93	▲7.9%	7.0%	16.1%
ベトナム	41,816	97,818	2.34	51,927	131,755	2.54	24.2%	34.7%	8.5%
ウルグアイ	37,342	89,309	2.39	42,438	120,148	2.83	13.6%	34.5%	18.4%
アルゼンチン	11,418	29,765	2.61	42,022	119,438	2.84	268.0%	301.3%	9.0%
その他	183,950	399,380	2.17	172,830	391,518	2.27	▲6.0%	▲2.0%	4.3%
合計	978,262	2,318,211	2.37	1,110,636	2,840,025	2.56	13.5%	22.5%	7.9%

資料：SECEX

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

25年10月の生体豚価格は、前年同月比3.0%安

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2025年10月のブラジルの生体豚取引価格（サンタカタリーナ州）は、1キログラム当たり8.27リアル（244円：1リアル＝29.55円^{（注）}、前年同月比3.0%安）となった（図2）。

また、ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）によると、同月の生産コスト指数は363.01

（同2.0%高）と前年同月をわずかに上回った。

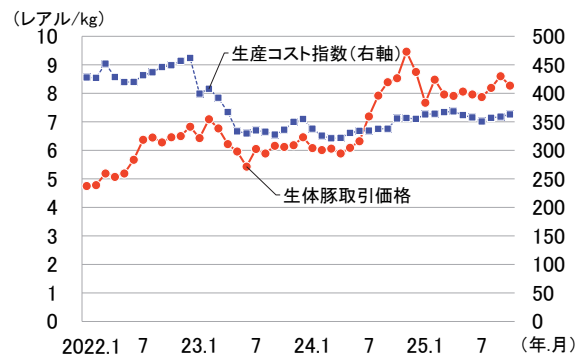
25年においては、生産コスト指数が横ばいで推移しているのに対し、生体豚取引価格はやや上昇傾向となっていることから、年間では生産者の収益性が緩やかに改善しているとみられる。

ブラジル国内市場については、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が発生した影響により、6月以降に鶏肉価格が下落傾向となったことで、豚肉は競争力を低下させていた。

しかしながら、9月に入り鶏肉輸出に回復の傾向が見られたことで、国内の鶏肉価格も上昇し、その結果、豚肉は鶏肉に対する競争力を取り戻すこととなった。これにより、国内の豚肉消費が下支えされるとみられている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 生体豚取引価格および生産コスト指数



資料：CEPEA（生体豚取引価格）、EMBRAPA（生産コスト指数）

注1：生体豚取引価格はサンタカタリーナ州のもの。

注2：生産コスト指数は2005年1月を100とする。

（調査情報部 原田 祥太）

鶏 肉

※米国政府機関の一部閉鎖により直近の情報を入手できなかったため、執筆時点にて入手可能な統計情報に基づいています。

米 国

鶏肉生産量が増加する中、卸売価格は下落傾向で推移

25年10月の鶏肉生産量、前年同月比1.3%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年10月の鶏肉生産量は、処理羽数と生体重量の増加により、200万8000トン（前年同月比1.3%増）とわずかに

増加した。また、25年1～10月の鶏肉生産量は1828万4000トン（前年同期比2.2%増）とわずかに増加した（表1、図1）。同年の鶏肉生産量についてUSDAは、孵化数が堅調に推移している中で、前月予測から1万8000トン上方修正の2175万7000トン（前年比2.1%増）と予測している。

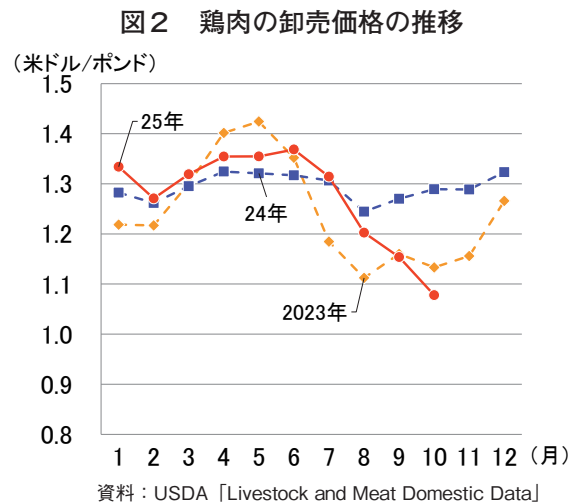
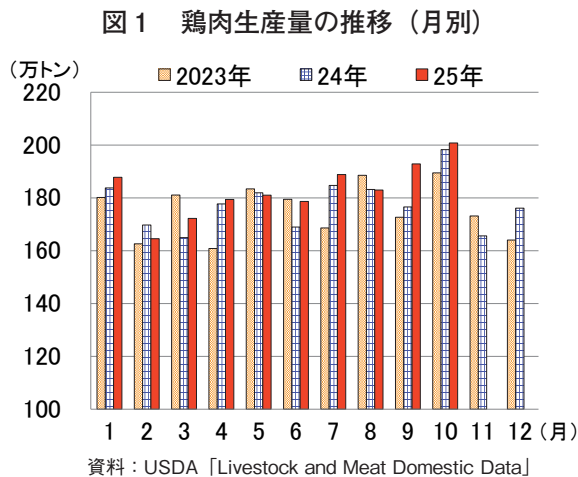
表1 鶏肉生産量の推移

項目	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
生産量（万トン）	198	201	1.3%	1,828	2.2%
処理羽数（百万羽）	862	870	1.0%	8,041	1.1%
生体重量（キログラム/羽）	3.04	3.05	0.3%	3.01	1.1%

資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。



25年10月の鶏肉卸売価格、前年同月比16.4%安

USDA/ERSによると、2025年10月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.08米ドル（1キログラム当たり375円：1米ドル＝157.63円^{（注）}、前年同月比16.4%安）と前年同月を大幅に下回って推移した（図2）。現地情報によると、鶏肉生産量の増加に伴う需給の緩和や、飼料価格の下落などが価格の低下につながったとみられている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

25年8月の鶏肉輸出量、前年同月比2.8%増

USDA/ERSによると、2025年8月の鶏肉輸出量は25万9824トン（前年同月比2.8%増）とわずかに増加し、25年1～8月累計では196万6734トン（前年同期比2.0%減）とわずかに減少した（表2）。8月を輸出先別に見ると、輸出量の約4分の1を占めるメキシコ向けは、価格競争力のあるブラジル産の台頭により前年同月比9.0%減とかなりの程度減少した。一方、台湾向けは、台湾の輸入先がほぼ米国のみである中、旺盛な需要や、前年同月の輸出量が低水準であったことなどから同約2.3倍と大幅に増加した。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 （増減率）	輸出割合	25年 （1～8月）	前年同期比 （増減率）
メキシコ	61,102	55,585	▲9.0%	21.4%	418,550	▲13.1%
台湾	12,753	29,753	133.3%	11.5%	156,619	20.1%
フィリピン	20,014	22,634	13.1%	8.7%	147,226	37.0%
キューバ	22,708	18,481	▲18.6%	7.1%	152,153	▲9.2%
カナダ	14,756	16,168	9.6%	6.2%	106,049	6.7%
アンゴラ	15,717	13,123	▲16.5%	5.1%	58,725	▲21.9%
グアテマラ	10,843	9,566	▲11.8%	3.7%	87,673	▲2.5%
ハイチ	5,345	8,227	53.9%	3.2%	52,780	34.2%
ガーナ	7,820	6,408	▲18.1%	2.5%	48,902	16.5%
その他	81,676	79,878	▲2.2%	30.7%	738,056	▲4.6%
合計	252,735	259,824	2.8%	100.0%	1,966,734	▲2.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

（調査情報部 小林 大祐）

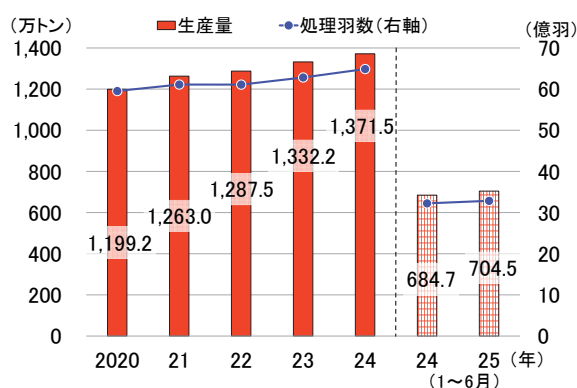
ブラジル

25年 1 ～ 10月の鶏肉輸出量は前年同期並みに回復

25年 1 ～ 6月の鶏肉生産量は前年同期比2.9%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年 1 ～ 6月の鶏処理羽数は32億8580万羽（前年同期比1.9%増）、鶏肉生産量は704万5000トン（同2.9%増）と、いずれも過去最大を記録した前年をわずかに上回るペースで推移している（図 1）。

図 1 鶏肉生産量および処理羽数の推移



資料：IBGE

25年 1 ～ 10月の鶏肉輸出量は前年同期並み

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年 1 ～ 10月の鶏肉輸出量は403万6361トン（前年同期比0.2%減）と前年同期並みとなった（表）。25年 5月15日にブラジルの家きん飼養施設で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の感染が確認されたことで、同国全域からの家きん肉などの輸入を停止した中国向けの輸出量が22万6676トン（同50.9%減）と大幅に減少したものの、その他の輸出先の増加分でカバーされた形となった。

中国と同様に、ブラジルから家きん肉などを輸入している国々は、HPAI発生に伴いそれぞれ輸入停止措置を講じてきた。その後、ブラジル政府による対応が進むにつれ、各国

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

国名	2024年（1～10月）			25年（1～10月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量	輸出額	単価
アラブ首長国連邦	389,570	806,828	2.07	392,760	769,478	1.96	0.8%	▲4.6%	▲5.4%
日本	372,566	723,660	1.94	335,547	693,522	2.07	▲9.9%	▲4.2%	6.4%
サウジアラビア	311,155	681,414	2.19	332,792	799,911	2.40	7.0%	17.4%	9.8%
南アフリカ	275,247	153,966	0.56	252,690	173,808	0.69	▲8.2%	12.9%	23.0%
中国	461,254	1,051,470	2.28	226,676	542,041	2.39	▲50.9%	▲48.4%	4.9%
メキシコ	170,404	427,655	2.51	219,726	534,847	2.43	28.9%	25.1%	▲3.0%
フィリピン	196,907	181,888	0.92	209,482	213,255	1.02	6.4%	17.2%	10.2%
韓国	127,599	236,321	1.85	144,939	292,564	2.02	13.6%	23.8%	9.0%
その他	1,740,892	3,108,151	1.79	1,921,749	3,103,047	1.61	10.4%	▲0.2%	▲9.6%
合計	4,045,592	7,371,353	1.82	4,036,361	7,122,472	1.76	▲0.2%	▲3.4%	▲3.2%

資料：SECEX

注 1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注 2：輸出量は製品重量ベース。

は同措置を順次解除しており、ブラジル農牧供給省（MAPA）は、9月22日にEUによる段階的な解除、11月7日に中国による解除を発表した。また、日本は発生地域ごとに解除が進み、11月14日に全域で解除となった^{（注1）}。主要な輸出先による輸入停止措置の解除の影響が、今後の輸出量に表れてくるとみられる。

（注1）詳細は、農林水産省プレスリリース（<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/251114.html>）をご参照下さい。

25年の鶏肉卸売価格は上昇傾向に転じる

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2025年11月24日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり8.12レアル（240円：1レアル＝29.55円^{（注2）}、前年同日比0.7%安）となった（図2）。HPAIの発生以降、下落傾向が続いていたが、各国の輸入停止措置の解除が進んだ結果、

9月に入り上昇傾向に転じた。前述したEUによる輸入停止措置の解除に伴い、ブラジル国内の業界は楽観的な見方を強めている。また、同国業界関係者は、輸出の回復とクリスマスシーズンによる国内需要の増加に伴い、25年末まで価格は堅調に推移すると見込んでいる。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の日毎の推移



（調査情報部 原田 祥太）

牛乳・乳製品

※米国政府機関の一部閉鎖により直近の情報を入手できなかったため、執筆時点にて入手可能な統計情報に基づいています。

米 国

25年10月の生乳生産量は増加、同月のバター卸売価格は大幅に下落

25年10月の生乳生産量は前年同月比3.7%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年10月の乳用経

産牛飼養頭数は957万5000頭（前年同月比2.2%増）とわずかに増加した（図1）。25年は右肩上がりで頭数が増加していたものの、生産者の収益性の悪化などから年内で初めて前月から減少となった。同月の生乳生産

量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量（同1.4%増）の増加により、883万1000トン（同3.7%増）とやや増加した（図2）。主要な酪農生産州で生産量が増加しており、前年に、乳用牛の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）感染の影響を受けていたカリフォルニア州では同6.9%増となった。

図1 乳用経産牛飼養頭数の推移

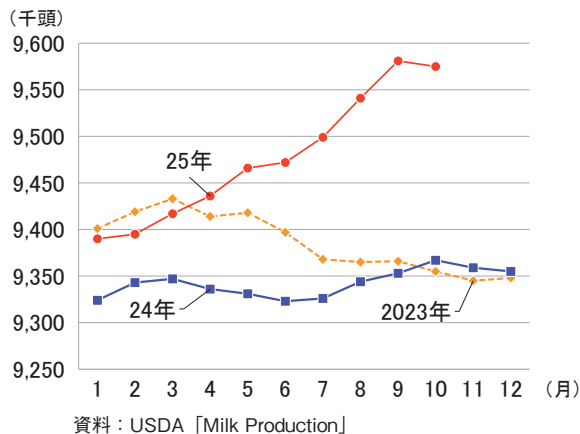
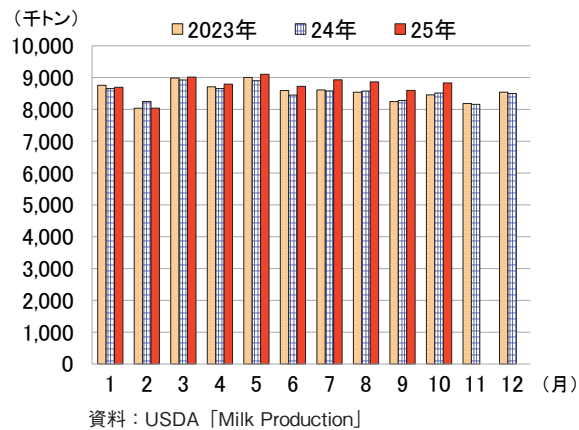


図2 生乳生産量の推移



25年10月のバター卸売価格は前年同月比39.2%安

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2025年10月のバター卸売価格は、堅調な生乳生産や生乳に含まれる乳脂肪分増加によるバター供給量の増加から、1ポンド当たり1.62米ドル（1キログラム当たり563円：1米ドル＝

157.63円^{（注）}、前年同月比39.2%安）と前年同月を大幅に下回り、21年2月以来の最安値となった（図3）。近年、消費者は栄養価の高い乳製品を求めている。生産者は、飼料の工夫や改良により、乳脂肪分とたんぱく質含有量の多い生乳（水分含有量を最小限に抑えた高成分濃度の生乳）の供給が可能となっている。

また、同月のチーズ卸売価格は、堅調な生乳生産により供給過多となり、同8.8%安の同1.76米ドル（同612円）と前年同月をかなりの程度下回った（図4）。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2025年11月末TTS相場。

図3 バターの卸売価格

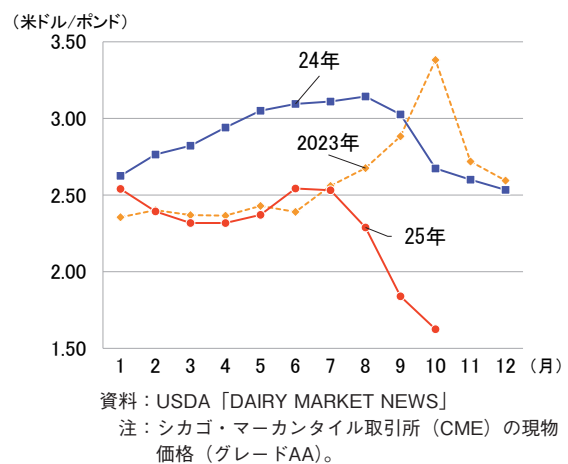
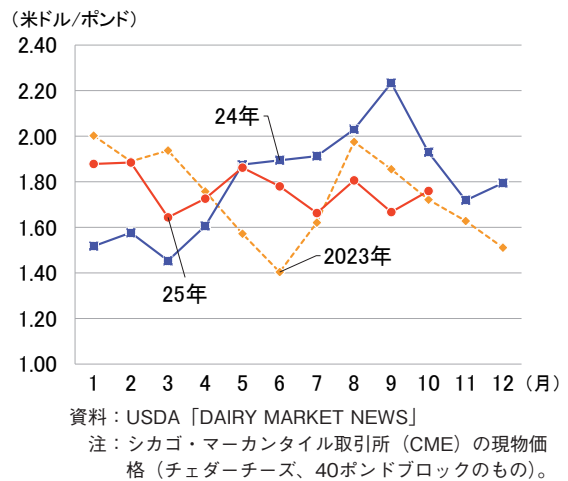


図4 チーズの卸売価格



（調査情報部 大西 未来）

バター価格が引き続き下落

25年9月の生乳出荷量は前年同月比2.9%増

欧州委員会によると、2025年9月の生乳出荷量（EU27カ国）は117万5000トン（前年同月比2.9%増）と、わずかに増加した（図1、表）。

現地報道によると、1）夏季の気温が前年より和らいだこと、2）生乳価格が堅調に推移していること、3）一方で、ブルータンクによる分娩の遅れがあることなどが影響している。特に、24年に発生したブルータンクの影響を受けて生乳生産量を減少させた国が回復

傾向にあり、オランダが同6.9%増、ドイツが同4.9%増と、それぞれ出荷量を増加させた。

図1 生乳出荷量の推移

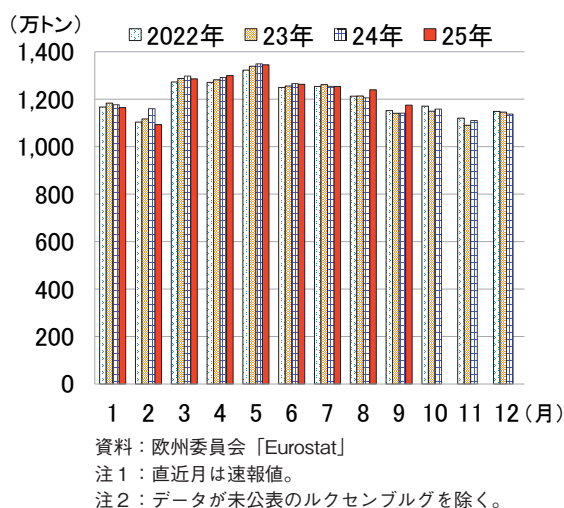


表 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：万トン）

国名	2024年 9月	25年 9月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	251	264	4.9%	2,432	▲1.1%
フランス	180	191	5.9%	1,813	0.4%
ポーランド	106	111	4.5%	1,041	1.3%
オランダ	106	114	6.9%	1,038	0.2%
イタリア	99	101	2.1%	966	▲2.7%
アイルランド	79	80	0.9%	759	5.7%
その他	319	314	▲1.5%	3,072	▲1.0%
合計	1,141	1,175	2.9%	11,121	▲0.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

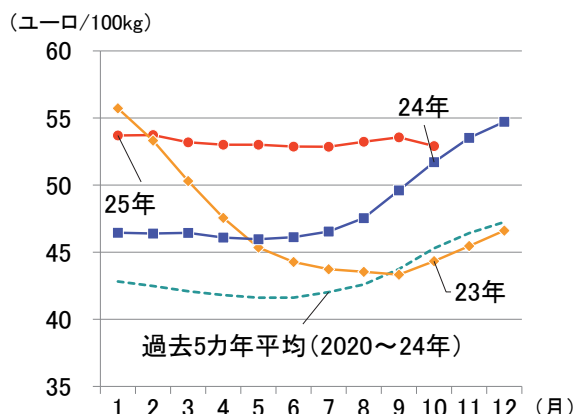
25年10月の生乳取引価格は前年同月比2.3%高

欧州委員会によると、2025年10月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり52.91ユーロ（1キログラム当たり97円：1ユーロ＝183.10円^注、前年

同月比2.3%高）と18カ月連続で前年同月を上回った（図2）。10月の乳価は引き続き高水準にあるものの、価格見通しの指標となる脱脂粉乳とバター価格から逆算される生乳取引価格は同月に大きく下落した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



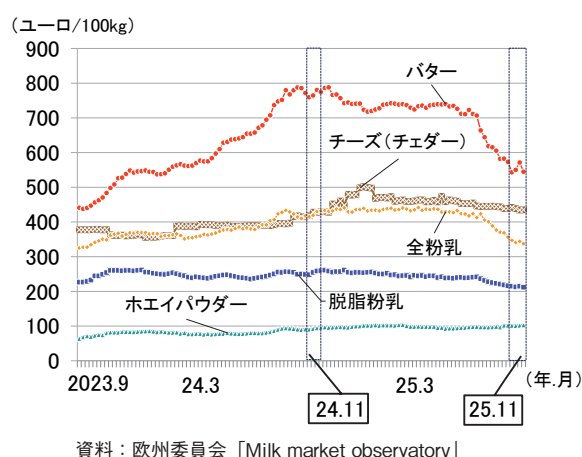
資料：欧州委員会「Milk market observatory」
 注1：直近月は推定値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

バター価格が続落

欧州委員会によると、2025年11月23日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり545ユーロ（1キログラム当たり998円、前年同期比29.7%安）と下落傾向が続いている（図3）。生乳やバターの生産量が増加していることに加え、米国産バターに比べEU産バターが高止まりしていたため、国際市場における

価格競争力が低下していることが影響している。このほか、全粉乳が同338ユーロ（同619円、同22.0%安）、脱脂粉乳が同212ユーロ（同388円、同18.4%安）と、いずれも前年同期を大幅に下回った。一方、チーズは同435ユーロ（同796円、同1.3%高）と、前年同期をわずかに上回った。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部 平石 康久）

N Z

25/26年度の生産者支払乳価は引き下げへ

25年10月の生乳生産量、前年同月比1.7%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年10月の生乳生産量は313万トン（前年同月比1.7%増）とわずかに増加した（図1）。25/26年度（6月～翌5月）の10月までの生乳生産量も、781万2000トン（前年同期比2.3%増）と前年同期を上回って推移している。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、比較的安価な飼料価格に支えられたことが、増加につながったとみている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、牧草の生育状況は地域でばらつきが出る可能性があるものの、飼料供給量が増加していることから、全体としては前年度をわずかに上回ると予想している。一方で、年末年始の降雨量が増加するラニーニャ現象の発生確率が

80%と見込まれており、放牧地の状態悪化による生乳生産への影響を注視している。

25年10月のバターおよびバターオイル、チーズの輸出量増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年10月の乳製品輸出量は、主要4品目のうちバターおよびバターオイル、チーズがいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、バターおよびバターオイル、チーズは、いずれも中国向けの増加が寄与した。一方、脱脂粉乳は中国、サウジアラビア向けが、全粉乳はインドネシア向けが、いずれも減少したことが影響した。なお、年度累計（25年6～10月）では、全粉乳、バターおよびバターオイルがいずれも前年同期を上回った。

図1 生乳生産量の推移

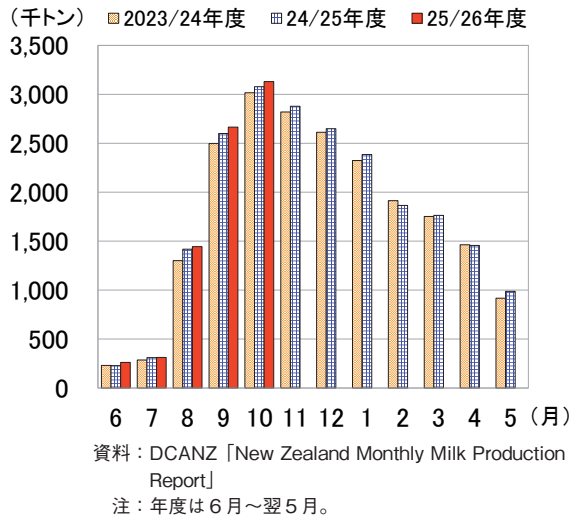


表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

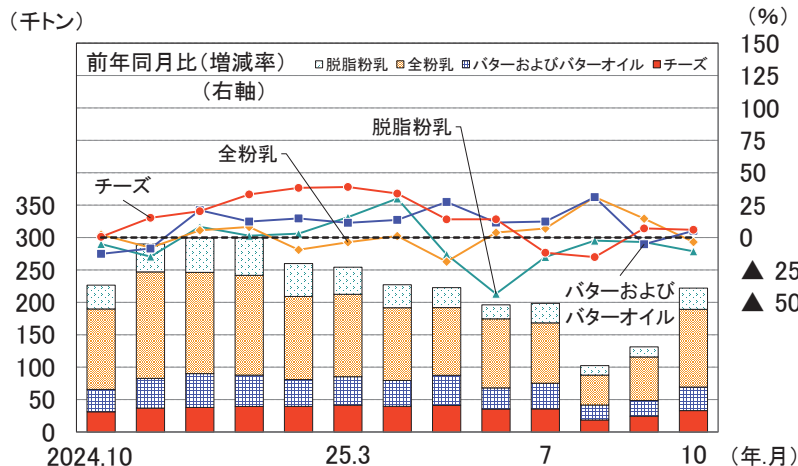
品目	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (6～10月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	36,700	32,786	▲10.7%	93,021	▲9.8%
全粉乳	124,189	119,914	▲3.4%	326,477	7.0%
バターおよびバターオイル	34,577	36,368	5.2%	123,131	9.1%
チーズ	31,076	32,928	6.0%	111,477	▲3.9%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



25年11月18日のGDT平均価格、主要4品目すべてで下落

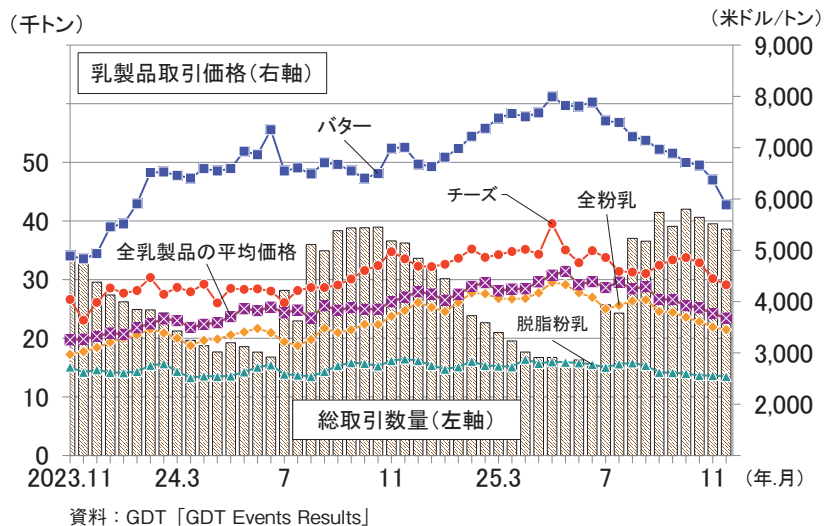
2025年11月18日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目すべてで前回開催時(25年11月4日)を下回った(図3)。取引全体では、米国、欧州、アルゼンチン、ニュージーランドの堅調な乳製品生産により需給が緩んだことで、市場の下落傾向が強まり、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3678米ドル(57万9763円、1米ドル=157.63円^(注2)、前回比2.4%安)とわずかに下落した。

このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は25年11月25日、25/26年度(6月～翌5月)の生産者支払乳価について、生乳の固形分^(注3) 1キログラム当たり平均0.5NZ

ドル(46円:1NZドル=91.64円^(注2))引き下げ、同9.5NZドル(871円)とし、25/26年度の同乳価の予測範囲を同9.00～11.00NZドル(825～1008円)から9.00～10.00NZドル(825～916円)に修正すると発表した。この理由について同社のハレル最高経営責任者は、今年度はNZ国内および他国において、乳製品供給量が堅調に推移しており、需給緩和から最近のGDT平均価格が下落しているためと説明している。

(注1) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。
(注3) 乳脂肪分および乳たんぱく質。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 田中 美宇)

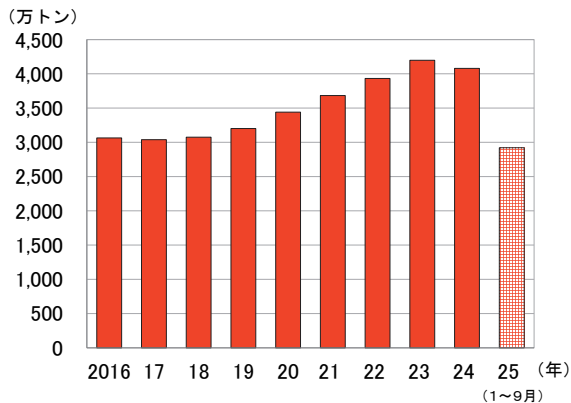
中国

生乳生産量は増加、生乳価格は上昇傾向で推移

2025年第3四半期の生乳生産量、前年同期比1.1%増

中国国家统计局によると、2025年第3四半期（7～9月）の生乳生産量は、天候に恵まれたことで牧草やコーンサイレージなどの飼料が十分確保できたことなどを受け、1057万トン（前年同期比1.1%増）とわずかに増加した。この結果、25年第3四半期まで（1～9月）の生乳生産量は、2921万トン（同0.7%増）とわずかに増加した（図1）。

図1 生乳生産量の推移



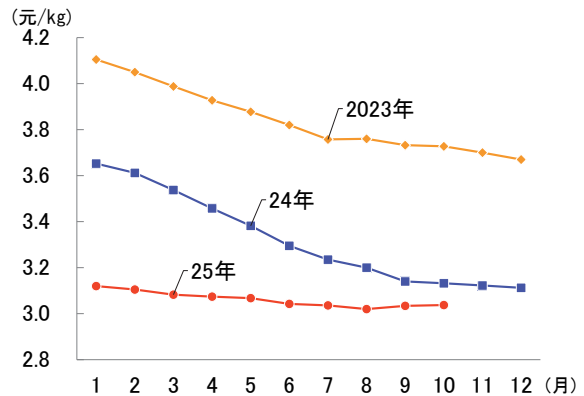
資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑

25年10月の生乳価格、前年同月比3.0%安

中国農業農村部によると、2025年10月の生乳価格は1キログラム当たり3.04元（68円：1元＝22.43円^{（注1）}、前年同月比3.0%安）とやや下回った（図2）。一方、25年9月以降の生乳価格は、前月比で0.01元（0.2円）ずつ上昇している。

（注1）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

この要因について同部は、25年11月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年10月）」（以下「月報」という。）の中で、（1）乳用牛の淘汰により生乳生産量の最適化が進む中、中秋節および国慶節の大型連休（25年は10月1～8日）で乳製品消費が活発化したこと、（2）10月中旬からの「双十一（ダブルイレブン）」^{（注2）}に向けてEC（電子商取引）プラットフォームや小売業者が乳製品の仕入れを行ったこと一を挙げている。

（注2）中国の一大ECセールイベント。ダブルイレブンは11月11日を指す。

25年1～10月の乳製品輸入量、脱脂粉乳と飲用乳を除き増加

2025年1～10月の主要乳製品8品目の輸入量は、脱脂粉乳と飲用乳を除く6品目で前年同期を上回った（表）。2品目の輸入量が減少した要因について現地専門家は、（1）中国国内のバターの生産増加に伴い、国産脱脂粉乳の生産量が増加している一方、発酵乳

向けの脱脂粉乳の需要が頭打ちであること、
(2) 中国の生乳生産量が引き続き高水準で
あり、輸入飲用乳の需要が低いこと一を挙げ
ている。

26年の中国の乳製品輸入量について米国
農務省海外農業局（USDA/FAS）は、25年
11月に公表した「Dairy and Products
Annual」の中で、(1) 全粉乳は中国国内で
の生産量が小幅に減少することを受け前年並

み、(2) 脱脂粉乳は高品質な海外製品への
堅調な需要を受け前年並み、(3) 飲用乳は
中国国内での生乳生産量の安定を受けわずか
に減少、(4) チーズおよびバターは中国国
内での需要の増加を受け小幅に増加、(5)
ホエイは養豚向けおよび育児用調製粉乳向け
の堅調な需要を受け前年並み一と予測してい
る。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

(単位：万トン)

品目	2023年	24年	25年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	43.1	41.0	35.3	4.1%	23.0%
脱脂粉乳	34.7	22.9	18.2	▲3.8%	4.6%
飲用乳	54.8	41.7	34.1	▲0.1%	4.9%
ヨーグルト	1.8	1.6	1.3	2.4%	▲7.2%
チーズ	17.8	17.3	15.6	10.9%	19.4%
バター	9.3	10.5	8.8	7.5%	31.9%
育児用調製粉乳	23.8	21.6	18.2	3.5%	12.5%
ホエイ	65.6	64.5	58.1	11.3%	14.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と
401.20、ヨーグルトは0403.20、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が
1901.10、ホエイが0404.10。

(調査情報部 平山 宗幸)

飼料穀物

世界

25/26年度は消費量の上方修正から期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年11月14日、10月1日以降閉鎖されていた米国政府機関の業務再開に伴い、2カ月ぶりに2025/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億8623万トン（前年度比4.5%増）と9月から35万トン下方修正された。主要生産国では米国の下方修正がEUの上方修正を上回った。

輸入量は、世界全体で1億9112万トン（同4.0%増）と9月から208万トン下方修正された。EUが2100万トン、中国が800万トンと前月からそれぞれ200万トン下方修正

されたことなどが反映された。

消費量は、世界全体で12億9654万トン（同3.3%増）と9月から718万トン上方修正され、引き続き高水準を維持している。主要生産国ではブラジルおよびアルゼンチン、ウクライナの上方修正が反映された。

輸出量は、世界全体で2億347万トン（同7.9%増）と9月から176万トン上方修正された。主要生産国では米国の上方修正がウクライナの下方修正を上回った。

この結果、期末在庫は、消費量および輸出量の上方修正が生産量および輸入量の下方修正を上回ったことで、2億8134万トン（同3.5%減）と9月から6万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2025年11月14日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(9月予測)	(11月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	33.66	38.91	▲13.1%
	生産量	389.67	378.27	427.11	425.53	12.5%
	輸入量	0.72	0.51	0.64	0.64	25.5%
	消費量	322.87	312.78	332.25	332.25	6.2%
	輸出量	57.28	71.89	75.57	78.11	8.7%
	期末在庫	44.79	38.91	53.58	54.71	40.6%
ブラジル	期首在庫	9.88	8.33	8.83	10.43	25.2%
	生産量	119.00	136.00	131.00	131.00	▲3.7%
	輸入量	1.72	1.60	1.60	1.60	0.0%
	消費量	84.00	94.50	95.00	96.50	2.1%
	輸出量	38.26	41.00	43.00	43.00	4.9%
	期末在庫	8.33	10.43	3.43	3.53	▲66.2%
アルゼンチン	期首在庫	2.32	2.48	2.78	4.58	84.7%
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	15.90	15.60	16.40	3.1%
	輸出量	36.26	32.00	37.00	37.00	15.6%
	期末在庫	2.48	4.58	3.19	4.19	▲8.5%
ウクライナ	期首在庫	3.00	0.64	1.06	1.04	62.5%
	生産量	32.50	26.80	32.00	32.00	19.4%
	輸入量	0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	5.38	6.40	6.43	7.00	9.4%
	輸出量	29.49	20.02	25.50	24.50	22.4%
	期末在庫	0.64	1.04	1.15	1.55	49.0%
EU	期首在庫	8.02	7.31	6.28	6.19	▲15.3%
	生産量	61.95	59.02	55.30	55.75	▲5.5%
	輸入量	19.83	18.70	23.00	21.00	12.3%
	消費量	78.10	76.10	76.90	75.30	▲1.1%
	輸出量	4.39	2.75	1.80	1.80	▲34.5%
	期末在庫	7.31	6.19	5.88	5.84	▲5.7%
中国	期首在庫	206.02	211.19	193.09	191.93	▲9.1%
	生産量	288.84	294.92	295.00	295.00	0.0%
	輸入量	23.33	1.82	10.00	8.00	339.6%
	消費量	307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
	輸出量	0.00	0.00	0.02	0.02	—
	期末在庫	211.19	191.93	177.07	173.91	▲9.4%
世界計	期首在庫	305.37	315.53	284.18	291.66	▲7.6%
	生産量	1231.06	1230.73	1286.58	1286.23	4.5%
	輸入量	197.44	183.83	193.20	191.12	4.0%
	消費量	1220.90	1254.61	1289.36	1296.54	3.3%
	輸出量	192.65	188.50	201.71	203.47	7.9%
	期末在庫	315.53	291.66	281.40	281.34	▲3.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

注2：10月予測は米国政府機関の一部閉鎖により公表なし。

（調査情報部 岡田 真希奈）

米国の大豆生産量の下方修正から 期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年11月14日、10月1日以降閉鎖されていた米国政府機関の業務

再開に伴い、2カ月ぶりに2025/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2175万トン（前年度比1.3%減）と

表 主要国の大豆需給見通し（2025年11月14日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(9月予測)	(11月予測)	前年度比 (増減率)
米国	期首在庫	7.19	8.98	8.61	▲7.6%
	生産量	113.27	117.05	115.75	▲2.8%
	輸入量	0.57	0.54	0.54	▲27.0%
	消費量	62.20	69.54	69.54	4.5%
	輸出量	46.27	45.86	44.50	▲12.8%
	期末在庫	9.32	8.17	7.89	▲8.4%
ブラジル	期首在庫	36.80	36.21	36.81	23.9%
	生産量	154.50	175.00	175.00	2.0%
	輸入量	0.87	0.35	0.35	▲52.1%
	消費量	54.41	58.00	59.00	1.7%
	輸出量	104.19	112.00	112.50	9.1%
	期末在庫	29.72	37.26	36.36	▲1.2%
アルゼンチン	期首在庫	17.00	24.05	23.10	▲4.0%
	生産量	48.21	51.11	48.50	▲5.1%
	輸入量	7.79	6.32	7.70	21.8%
	消費量	36.58	43.21	41.00	▲5.1%
	輸出量	5.11	7.87	8.25	4.8%
	期末在庫	24.05	23.85	22.85	▲1.1%
中国	期首在庫	32.34	43.48	44.49	2.7%
	生産量	20.84	21.00	21.00	1.7%
	輸入量	112.00	112.00	112.00	3.7%
	消費量	99.00	108.00	108.00	4.3%
	輸出量	0.07	0.10	0.10	42.9%
	期末在庫	43.31	43.38	44.39	▲0.2%
世界計	期首在庫	101.86	123.58	123.34	7.1%
	生産量	396.36	425.87	421.75	▲1.3%
	輸入量	178.28	186.21	186.41	4.1%
	消費量	331.19	366.63	364.98	2.0%
	輸出量	177.83	187.78	187.97	1.6%
	期末在庫	115.12	123.99	121.99	▲1.1%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

注3：10月予測は米国政府機関の一部閉鎖により公表なし。

9月から412万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは9月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は単収減少を受けて9月から130万トン下方修正された。この他に、ウクライナとインドの下方修正も報告されている。

輸入量は、世界全体で1億8641万トン（同4.1%増）と9月から20万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（前年度比3.7%増）と9月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6498万トン（同2.0%増）と9月から165万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.3%増）と同様に据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8797万トン（同1.6%増）と9月から19万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは9月から50万トン上方修正された一方、これに次ぐ米国は生産量減少が見込まれる中、

バイオ燃料向け大豆油の需要増加などに伴い、9月から136万トン下方修正された。

期末在庫は、生産量の下方修正などを反映して1億2199万トン（同1.1%減）と9月から200万トン下方修正された。

今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、11月12日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離^{かいり}がある。米国政府は11月1日、韓国でトランプ大統領が中国の習近平国家主席と貿易・経済協定を結んだことを発表した。この中で、中国は25年後半の2カ月間で少なくとも1200万トンの米国産大豆を購入し、26～28年にもそれぞれ少なくとも2500万トンを購入するとしている。これにより、乖離の幅がどの程度縮小されるのかが注目されている。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国は生産量の増加などから期末在庫が大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年11月14日、10月1日以降閉鎖されていた米国政府機関の業務再開に伴い、2カ月ぶりに25/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

米国内生産量は、167億5200万ブッシェル（4億2552万トン^{（注1）}、前年度比12.5%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

米国内消費量は、130億8000万ブッシェル

（3億3225万トン、同6.2%増）と前年度からかなりの程度増加すると見込まれている。

輸出量は、30億7500万ブッシェル（7811万トン、同8.7%増）と前年度からかなりの程度増加すると見込まれている。

期末在庫は、21億5400万ブッシェル（5471万トン、同40.6%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、13.3%（同3.2ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1 ブッシェル当たり4.00米ドル（631円。1 キログラム当たり25円：1 米ドル＝157.63円^{（注2）}、同5.7%安）と前年度からやや下落すると見込まれている。

（注1）1 ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年11月14日米国農務省公表）

区分	－単位－	2023/24 年度	24/25 年度 (推計値)	25/26年度			
				(9月予測)	(11月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.9	98.7	98.7	39.94（百万ヘクタール）	8.6%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	83.0	90.0	90.0	36.42（百万ヘクタール）	8.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	186.7	186.0	11.67（トン/ヘクタール）	3.7%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,325	1,532	38.91（百万トン）	▲13.1%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,892	16,814	16,752	425.52（百万トン）	12.5%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	20	25	25	0.64（百万トン）	25.0%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,675	18,165	18,309	465.07（百万トン）	9.8%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,711	12,314	13,080	13,080	332.25（百万トン）	6.2%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,832	5,492	6,100	6,100	154.95（百万トン）	11.1%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,879	6,821	6,980	6,980	177.30（百万トン）	2.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,489	5,436	5,600	5,600	142.25（百万トン）	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,255	2,830	2,975	3,075	78.11（百万トン）	8.7%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,144	16,055	16,155	410.35（百万トン）	6.7%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,532	2,110	2,154	54.71（百万トン）	40.6%
期末在庫率	(%)	11.8	10.1	13.1	13.3		3.2ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.24	3.90	4.00	24.8（円/kg）	▲5.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1 ブッシェルは約25.401キログラム、1 エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

注4：10月予測は米国政府機関の一部閉鎖により公表なし。

（調査情報部 岡田 真希奈）

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

25年10月の国産トウモロコシ価格、供給増からやや下落

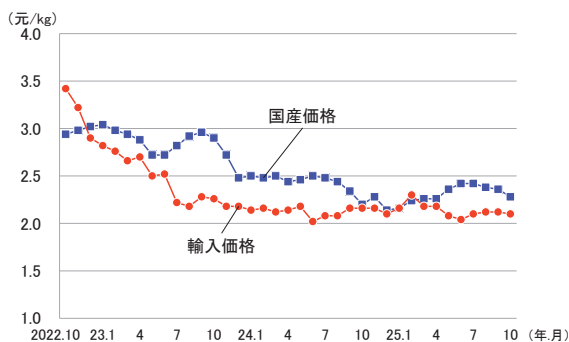
中国農業農村部は2025年11月26日、「農産物需給動向分析月報（2025年10月）」を公表した。この中で、25年10月の国産トウモロコシ価格は、前月からやや下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では新穀が大量に出回り、十分な状況と

されている。また、需要面ではコーンスターチ製造企業などの調達が必要量に限られたことで、価格の下支えが不十分となったとされている。一方、中国最大の穀物・食品企業である中糧集团有限公司（COFCO）による備蓄買い付けが順調に進むとともに、コーンスターチ製造企業の稼働率改善から、当企業の在庫は増加傾向にある。さらに気温低下に伴い産地保管も容易となるため、今後の価格は

底を打ち、安定した推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{かんとう}黄埔港^{こうほ}到着価格は、25年10月が1キログラム当たり2.10元（47円：1元＝22.43円^{（注）}、前月比0.9%安）とわずかに下落した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が2.28元（51円、同3.4%安）とやや下落したことで、輸入と国産の価格差は縮小した。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

25年10月の国産大豆価格、供給増からかなりの程度下落

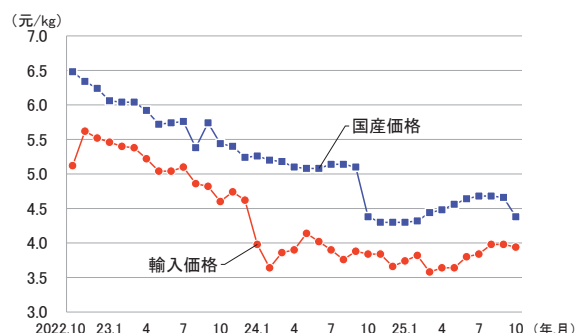
2025年10月の国産大豆価格は、前月からかなりの程度下落した（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では南方地域の収穫が進むにつれ、段階的な供給増加が見込まれている。需要面では、新穀の大豆価格が安定傾向ながらやや軟調となる一方で、水分が少なくたんぱく質含有量が多い高品質な大豆は供給がひっ迫しており、価格は堅調に推移すると予想されている。このため、国産大豆価格全体で見れば、短期的には安定した推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省^{こくりゅうこう}の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年10月が1キログラム当たり3.86元（87円、前年同月比0.2%安）と前年同月並みであるが、前月からはやや下落した。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省^{さんとう}の国産大豆価格は、同4.38元（98円、前年同月比同）と前年同月並みであるが、前月からはかなりの程度下落した。同月の輸入大豆価格は同3.94元（88円、前月比1.0%安）となったが、国産価格の下落幅が輸入価格の下落幅を上回ったことで、輸入と国産の価格差は縮小した。

国際相場に影響する大豆輸入量は、前年水準を上回っている。25年（1～9月）の輸入量は8168万トン（前年同期比5.3%増）とやや増加した。また、輸入額は同8.0%減の383億4700万米ドル（6兆446億円：1米ドル＝157.63円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の73.9%）、米国（同19.5%）、アルゼンチン（同3.4%）であり、ブラジルからの輸入が増加している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年11月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

（調査情報部 今野 恵太）